

透析患者の新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応

秋葉 隆 ● 青淵学園東都大学／東京ネクスト内科・透析クリニック

WHO は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が蔓延期に入ったと宣言した。本稿では透析患者および透析施設の COVID-19 への対応について述べる。

透析患者の COVID-19 は、以下のように対応する。

- ① COVID-19 が疑われる症状が2日程度続いた場合、インフルエンザの迅速検査を行う。
- ② インフルエンザ検査陰性の場合、基礎疾患があるので重症化のリスクが高く、保健所/帰国者・接触者相談センター 参考 URL 1) に相談して、PCR 検査の手配を行う。
- ③ PCR 検査陽性で重症の場合、血液検査ができる指定病院または協力病院に入院要請するが、受け入れできないときには自施設で隔離透析を継続する。

中等症や重症の判定には、血液ガス分析における I 型呼吸不全 (PO_2 低下, PCO_2 正常～低下) が有用である。胸部 X 線または CT 画像における間質性肺炎の所見はかなり進行してから出現する。

- ④ 本感染症の潜伏期は、約5日で最長14日程度。遷延する発熱を主体とする上気道炎症例、肺炎症例、発症8日以降に呼吸不全が進行し急性呼吸窮迫症候群 (ARDS) を併発してさらに重症化する。感染者の症状としては、発熱、咳、筋肉痛、倦怠感、呼吸困難が認められる。
- ⑤ 本感染症の重症化しやすい要因としては高齢者や糖尿病、心不全、腎不全、透析患者などがある。

死亡例では ARDS や敗血症、敗血症性ショックなどがある。

- ⑥ 対症療法に終始する。治療薬はない。わずかに抗 HIV 薬、免疫抑制薬、ステロイド薬が有効の可能性はある。

対応の詳細については、日本透析医会のホームページを参照いただきたい 参考 URL 2), 3)。

●おわりに

感染症に終わりはない。9年前の新型インフルエンザの教訓を活かして、診断と治療に恐れず当たってほしい。

参考 URL (2020 年 3 月現在)

- 1) 厚生労働省：新型コロナウイルスに関する帰国者・接触者相談センター。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/covid19-kikokusyaseisyokusya.html
- 2) 日本透析医会：新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について (第2報)。
http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/03_info/doc/20200226_corona_virus_4.pdf
- 3) 日本透析医会：新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について (第3報)。
http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/03_info/doc/20200304_corona_virus_6.pdf